

令和4年度 第3回徳島県自殺対策連絡協議会 議事概要

○日 時 令和5年3月16日(木)
午後2時から午後3時まで

○形 態 オンラインによるWeb会議

○出席者 徳島県自殺対策連絡協議会委員 15名
沼田会長, 菊池副会長, 櫻木委員
岡本委員, 斎藤恵委員, 綿貫委員, 山口委員
大西委員, 伊坂委員, 斎藤委員(林代理)
郡委員(佐藤代理), 石元委員, 大久保委員(加藤代理)
榊委員(久保代理), 勝瑞委員(谷崎代理)
事務局(徳島県保健福祉部保健福祉政策課)

○会議概要

1 開会

2 あいさつ

(保健福祉政策課 福良課長)

(協議会会長 徳島大学大学院 沼田教授)

3 会議次第

(1)自殺者数の現状について

(2)自殺対策強化月間(3月)を含む令和4年度の取組状況について

(3)令和5年度の取組について

(4)自殺総合対策大綱の見直しを受けた

「徳島県自殺対策基本計画」改定について

4 発言要旨(議事概要)

議事(1)自殺者数の現状について

議事(2)自殺対策強化月間(3月)を含む令和4年度の取組状況について

議事(3)令和5年度の取組について

委員

令和元年の「労働施策の総合的な推進並びに労働者の雇用の安定及び職業生活の充実等に関する法律」改正を受け、職場におけるパワーハラスメントや職場でのいじめ、嫌がらせが明確化され、定義づけられた。

令和2年の6月から、大企業ではパワハラ防止措置を事業所で講じなさいという制度がスタートし、令和4年の4月からは、徳島県内の大半を占める中小企業でも防止措置が義務化されている。

令和2年度以降、労働局では、事業所を集め、年間20回前後の説明会を開催し、制度の理解を促したり、啓発をしたりしており、トータルで1000社以上が参加している。

職場でのパワハラやいじめを原因として、自殺まで追い込まれる人を会社ぐるみでゼロにしていこうという取組を推進している。

なお、この取り組みは労働局雇用環境均等室が所掌している。

令和4年の自殺者数減につながったかどうかはわからないが、パワハラがよくないったということが認知され、精神的に追い込まれる人をなくすという流れが一つできたかと考えている。

委員

令和5年度、新規に教育委員会で行う「子どものリスク対応支援チーム派遣事業」について補足説明させていただく。

この事業は、心の問題や精神的な不調など、様々なリスクを抱える子どもたちに対して、支援体制の充実を図るためにスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーに加え、新たに精神科医などの専門家に加わっていただき、医学的見地からの子ども支援対応支援チーム(CRT)を立ち上げ、学校からの要望に応じて派遣しようというもの。

教育委員会では、これまでも専門家の派遣や関係機関との連携を図ってきたところだが、本事業では特に希死念慮や自傷行為等の自殺関連行動や、心のリスク状態にある子どもへ、「危機対応」と「予防的対応」の両面から迅速かつ的確な支援を行って参りたいと考えている。

このチームの具体的な活動については、学校におけるケース会議への助言や、精神疾患に対する正しい知識や対応の仕方を学ぶ教職員研修を行うなどを想定しており、子どもと直接関わる支援者側をサポートしていきたいと思っている。

このリスク対応支援チームの構成は、精神科医、公認心理師、精神保健福祉士、社会福祉士、児童福祉司、保健師、大学教授等を考えている。

今後、各関係機関に協力をお願いすることがあるかと思うので、そのときには協力をお願いしたい。

委員 事務局が示した令和5年度の重点的取組方針の孤独・孤立問題に対する取り組み強化の一番最後の行で、周産期や子育て期など、女性ならではの悩みや不安に対応した相談窓口の拡充で、SNS相談の実施ということを挙げているが、これはどういうものか。

委員 健康づくり課では、「性とカラダのみらいナビ@とくしま」というLINEアプリを使った相談を行っている。

例えば、避妊のことや性の病気に関する事など、なかなか相談しにくい内容を気軽に相談できるように受け付け、悩みの状況によって、専門的な病院につないだり、専門の機関へつないだりするなどの役割を担っており、今のところ友達登録が400名を超えている状況。

この相談については来年度も継続していきたいと考えている。

委員 徳島県助産師会も昨年度、徳島県未来創生文化部次世代育成・青少年課からの委託を受けて、LINE相談を約1年間行った。

コロナ禍で困っている妊産婦さんの心のよりどころとして機能し、相談も継続して増加しており、我々も今の時代にマッチしているんだと、やりがいを感じて対応していたが、予算の関係で一方向的に打ち切られ、1年もしない間に中止になってしまいう結果になっている。どうにかならないかと思って、発言させていただいた。

すごく悩ましい相談もあり、妊産婦さんの中には本当に危機的な状況に陥っているような相談も寄せられていたりするので、残念というか、どうにかならないものかと思って発言した。

事務局 いただいた御意見は今後の参考にさせていただくと同時に、未来創生文化部次世代育成・青少年課と情報共有をしておく。

議事(4)自殺総合対策大綱の見直しを受けた「徳島県自殺対策基本計画」改定について

委員

今、徳島県の自殺対策基本計画の改定についてのご説明があったが、令和5年は、ちょうど医療計画、あるいは障害福祉計画等、自殺以外の計画も改定される。

令和6年から次期計画が始まるということで、令和5年には都道府県の方で計画の策定作業が行われると考えている。

例えば、医療計画でも、5疾病のうちの精神疾患であるとか、6事業になるわけですが、救急や、周産期の事業計画の改定も同時に行っていく。

ある程度、それらの他の計画と整合性を取った形で、自殺対策基本計画も立てていく必要があるのではないかと考えている。

先ほど委員のお話にあった周産期の問題などは、特にその6事業の方の周産期の中で様々取り上げられており、地域での協議会のこともふれられている。

せっかくの機会なので、他の計画との整合性を取りながら計画策定を進めていただきたいということを要望したい。

事務局

委員ご指摘のとおり、他の部局と計画改定について連絡を取り合い、連携して整合性をつけていくことは、とても重要なポイントだと考えている。

精神科医療や周産期医療など、自殺と関連性が深い計画については特に注意して進めてまいる。

その他連絡事項について

委員

3月24日の19時30分から、「自殺予防対策研修会」を行う。

直前のご案内となったが、本日ご参加の委員のみなさまで、ご都合がつく方はぜひご参加を。

本協議会委員の精神保健福祉センターの石元先生や自殺予防協会の菊池理事長様、徳島県弁護士会様からも御講演をいただき、実際の相談内容に基づいた具体的な内容を取り扱う。

産業医や医師会の会員には案内をしているが、他の方の参加も可能。

オンラインでも受講できるので、医師会事務局まで電話かメールをください。

5 閉会のあいさつ(保健福祉政策課長)